

「武蔵野市長が外国人市民に住民投票権…ただ住んでるだけで
与えられても住民が迷惑。政治の成り立ちを解説します」

令和3年11月23日

●猫さんからの質問

東京都武蔵野市の松下市長が在留期間などの条件を与えず、外国人も、一定の実績があれば住民投票の投票権を与える条例案を19日開催の市議会に提出すると発表しました。このまま認めてしまうと外国人参戦権も出来てしまいます。そうなる外国人によって、この国が乗っ取られてしまうリスクが高いと感じます。今こそ、日本人の文化、価値観を守る事の大切さをきちんと伝えていく事によって、このような事を絶対に認めさせないように日本人全体の考えを持っていく事が大切だと考えますが、西田先生はどのようにお考えでしょうか？

●西田昌司の答え

私は武蔵野市の今回の件についてはよく知りませんし、外国人住民投票権にとどまって外国人地方参政権にまで及ぶ話ではないと思いますが、何れにしても大きな問題と思われれます。

松下市長は、武蔵野市に住んでいればたとえ外国人であろうが住民投票権を与えるべきと考えているようですが、在留期間が三ヶ月で日本語もわからないような外国人からしたら与えられる方がかえって迷惑でありますし、松下市長は政治の根本を全く理解していないのでしょう。

何故、日本列島において日本人のみに参政権が与えられているかと問えば、その本質は相続権です。我々の先祖が日本の国を作って発展させ、今を生きる日本人が受け継いでいますが、我々には先人から渡された日本をより

よい形で子孫に渡す義務がありますし、権利と義務は不可分です。

住民投票権や参政権といった権利には、地方や国を守るという義務が伴いますが、その義務の部分がどこかに行ってしまうと権利のみを主張する風潮が戦後にはびこり、松下市長も戦後日本人のメンタルを持つ人なのでしょう。ですから、在留期間にかかわらずに住民投票権を与えようなどという発想が出てくるのです。

東京には次から次に人がやってきて、東京に縁のない日本人が地方参政権を行使しているという現実がありますし、であれば何も義務とかいった話を持ち出さなくても外国人にだってそこに住んでいれば参政権を与えるべきとの論法を賛成派は持ち出すでしょうが、地方や国を守るという気概を失ってしまった日本人の感覚でものを言っているのです。

政治とは我々の生死にかかわる問題であり、地方や国を守る覚悟を持たない者には政治に参加する権利などありません。そのような覚悟のない人間が市長になったがゆえの今回の騒動なのだと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>